- 1 単元名 当事者として政治を見つめる ～政策の立案と議員さんとの交流から～
- 2 単元設定の背景

教材観

当事者性について、岡田泰孝(2019)は「自分が『当事者』と考えた人々への影響を考え判断する際に、単に個人的な利益だけでなく様々な立場の人々の状況を考えていることが『当事者性』が高い状態である」と述べている。政治を学ぶ上でこの「当事者性」を育むことは、自分や身の回りの人々の困り事を出発点に、社会の仕組みに関心をもつ姿勢につながる。今回は、政策の立案に重きを置く。政策とは、「①政府、政党、団体または個人が公共的な問題について、とるべき方向や態度。方針。②目的を遂行するための実行手段」(日本国語大辞典)とされ、その立案には「1アジェンダ設定→2課題設定→3政策案の策定→4意思決定・実行→5評価・改善」(経済産業省 JAPAN+D)といった手順がある。本単元では、子供達自身が感じている身近な困り感や自分を取り巻く人々の身近な課題を考え、それに対する解決策を「政策」として具体化する活動を行う。こうした政策立案の活動を体験することで、子供達は自分達の声を社会に届ける模擬経験をすることで、当事者性を高める一歩となる。また、ここでは子供達の生活に最も近い政治機関である市町議会に焦点を当てる。市町議会は、国会や県議会に比べて地域に根ざした議論が行われており、子供達の身の回りの課題と直結する政策が扱われる場である。市町議会を学習対象とすることで、政治が身近なものだと捉えやすくなる。このように、政策の立案と身近な市町議会を題材とした本教材は、子供達が政治を自分との関係で捉える力を育み、当事者として社会を見つめるきっかけを生み出すものであると考える。さらに、自ら社会に関わろうとする姿勢を育てることで、社会科の目指す目標に迫ることができる教材であると考え。

児童観

本学級の子供達に政治についてのイメージを聞くと、「地域の代表者が勝手にやっている」「あまり進んでいない」「政治がそもそも分からない」といった様々な意見が見られた。政治に関するアンケートでは「国や地方の政治についてどの程度関心を持っていますか?」の質問に肯定的な回答が29.0%、否定的な回答が54.8%、分からないが16.1%であり、「現在の政治に対してどの程度満足していますか?」では、肯定的な回答が16.1%、否定的な回答が41.9%、分からないが41.9%であった。また、「政治に関する情報を主に何から得ていますか?」の質問に、テレビ71.0%、新聞3.2%、インターネット12.9%と、多くの子供が各種のメディアを通して政治に関する情報に触れていることが分かった。

集団観

お互いの良さや違いを理解し、それを認め合うことによって共に高め合おうとする学級集団を育てる。本学級は学習意欲の高い児童が多いのが実態である。しかし、主体的に学ぶことのできる子供がいる一方で、他者から課題を与えられないと学習を始められない子供もいる。その原因として自分の意見・考えへの自信の無さだと考える。今回の子供自身が政策を立案する学習する過程において、政策案に対する自分の思い(困り感や希望、他者への影響など)を込めることで、市町議会議員に提案したり、意見交流したりする活動において、自信をもって意見・考えを表現できる集団を育成する。

指導観

指導にあたり3点に留意する。1点目が「子供目線での政策の具体化」。本単元では、「自分自身や自分を取り巻く人々の身近な困り感」という視点で政策の立案を図る。政策を子供目線での政策の具体化を図ることで当事者性の向上を目指す。2点目が「為政者との出会い」。政治との心理的な距離を近付けるため、8名の市議会議員を招聘し、小グループでの政策の提案や意見交流ができるような環境設定を行い、政策を媒介とした双方向的な関わりの場を設ける。3点目が「自伸会(児童会)活動とのつながり」。本単元で学んだ政策を立案する経験を11月の自伸会選挙で5年生が立候補者として公約を立てる際に活用を図ることに繋げていく。

3 単元の目標及び計画(全8時間)

■単元の目標

子供達自身で政策を立案し、市議会議員への提案や意見交流を通して、市民の声を聴き、みんなで決めて、みんなで守ると政治のしくみを理解するとともに、政治に関わろうとする姿勢が自分を取り巻く生活の安定と向上につながっていることを実感することができるようにする。

■単元の計画

第1次 自分自身や自分の周りの身近な人々の日常生活の困り感から、政策を立案しよう。・・・4時間(本時)

第2次 市議会議員の方との意見交流会をしよう。

(自分の考えた政策の発表・意見交流)・・・3時間

第3次 政策を立案する時のポイントをまとめよう。・・・1時間

4 単元の評価規準

保育・教科部 社会①

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
政策の立案に向けて必要な資料を分析したり、読み取ったりすることを通して、市民の声を聴いたり、みんなで聞いて、みんなで守るといふ政治のしくみを理解している。	政策の立案に着目する中で、政策を立案する上で必要な情報とは何かについて考え、情報を基にどのような政策が必要なのかを適切に表現している。	政策の立案を構成するために、必要な情報を獲得したり、よりよい政策を試行錯誤したりするなど、主体的に問題の解決を図ることで、政治に関わろうとする姿勢が自分を取り巻く生活の安定と向上につながることを実感している。

5 本時の学習

■目標 政治への具体的な関わり方を考えたり、「こども家庭庁」「こどもまんなか社会」「政策」という新たな知識を獲得したりする活動を通して、自分自身でよりよい社会を作るための政策を主体的に考えようとする意欲をもつことができる。

■学習過程 ※(全)(小)(個):学習形態(全:全体場 小:小集団 個:個人)㊟:留意点 ㊠:評価の観点(方法)

学習事項	児童・生徒の活動	教師の働きかけとねらい	集団
1. 学習課題への接近	(1) 自分達が政治にどのように関わっているのかを振り返る。 ・国会で政治家の人たちが討論しているのを見たことがある。 ・新聞で政治のことを書いているページがある。	(1) 子供達がどのように政治と関わっているのかを発表させ、政治への関わり方に対する課題に接近する。 ㊟アンケートをもとに、政治への関わり方が受け手のみになってしまっていることに気付かせる。	(全) 政治への関わり方について、友達がどのように関わっているのかを共有する。
2. 学習課題の設定	(2) 政治への関わり方(受け手としてではなく)には、どのようなことがあるか考える中で、学習課題を設定する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">子供としての政治への関わり方を考えよう。</div>	(2) 政治への関わり方(受け手としてではなく)に対する課題を設定する。	(全) 学習課題を学習集団全員で解決しようとする意欲を高める。
3. 学習課題の追求 (個による考察)	(3) 政治への関わり方(受け手ではなく)にはどのようなものがあるか考える。 ・政治家の名前を知る。 ・どんな政党があるのかを学ぶ。 (4) 「こども家庭庁」・「こどもまんなか社会」について知る。 ・こどもの考えが大事にされ始めている。 (5) 「政策」について知る。 ・政策とは、自分や周りの人の困り事から考え始めればよい。	(3) 子供達の考える関わり方を自由に考えさせる中で、様々な関わり方があることに気付けるようにする。 (4) 動画を視聴させ、子供の思いを反映させる社会のしくみにしてきたことをつかませる。 (5) 説明と動画の視聴を行い、社会をより良くするための方法の一つに政策という手段があることをつかませる。	(全) 新たな知識を全体で獲得し、今後の政策作りに対する目的を共有する。
4. 本時のまとめと次時への発展	(6) 本時の振り返りを行う。 ・今日の授業で、こどもの意見が大切にされ始めていることを知った。これから、自分や周りの人の困っていることから政策を考えていきたい。	(6) 振り返りを書かせる。 ㊠政治への関わり方の一つとして子供目線の政策づくりがあることを知り、今後の活動に対して意欲を生み出すことが出来ているか。	(全) → (個) 学習課題に対する自分の考えを、小グループや全体での話を参考にまとめる。